



3月 山行報告



■三室山(アルプ山行)

- 山 行 日 : 1月23日(土)
- 参 加 者 : L竹内 SL須増 三木(悦)
- 行 動 記 録 : 駐車場 8:30 発～休憩(8:50・着衣服調整)8:55 発～
源流ポール地点(9:10 着)9:15 発～アイゼン装着(9:45 着)
9:55 発～休憩(10:35 着)10:40 発～頂上(11:50 着)11:58 発～
昼食(12:25 着)12:40 発～源流ポール地点(13:15 着)13:20 発～
駐車場(13:45 着)

◆◆雪の三室山

昨年の三室山は積雪量もあって、時間切れでピークに立つことが出来ませんでした。今回はスタートを早めにして臨みました。暖冬のせいでスキー場は雪不足と報道されていましたが、ここ数日雪が降り冬らしい気候になりました。

メンバーは三人と少し寂しい人数でした。スタート地点は市民の森の横に車を止め、10cm位の少な目の積雪量で、昨年とはルートを変えて、トレースもあり前半は歩きやすかったですが、高度を増すごとに雪も増えて1000mを超えたあたりでは膝上位のラッセルになりました。

頂上付近は例年ですと笹が雪で隠れて白いスロープになるところが、所々笹が出ていて断念でしたが、ピークに立つこともでき樹氷もきれいについていて楽しい一日でした。

竹内



■^{きぬがさやま}織山・安土山山行(湖東の山と城跡を歩く)

- 山 行 日 : 1月31日(日)
- 参 加 者 : La 瀧原 SLa 垣内 有本 田中(重) 田中(由) 平井(み) 藤本 舛賀
宮崎 森下 吉村
Lb 砂川(延) SLb 山本(正) 清水 田口(末) 田口(善) 田中(美)
西脇 苦瓜 平石 山本(清) 村上 矢根

- 行 動 記 録: 安土駐車場(10:25 着)10:35 発～大手門跡(10:40 着)～天主跡(11:00 着)11:20 発～三重塔(11:30 着)12:00 発～大手門跡(12:10 着)12:20 発～繖山登山口(12:30 着)～繖山山頂(13:40 着)13:50 発～観音寺城跡(14:15 着)～繖山山頂(14:35 着)～地獄越(15:15 着)15:20 発～やわらぎの郷(15:40 着)15:50 発～山電高砂駅(19:20 着)

◆◆繖山・安土山山行

田口(善)



一週間前は寒波、一昨日は雨、どうなる事かと思った繖山山行。冬とは思えぬ陽気に着込んだ服を蝶の如く1枚1枚脱皮、否や脱ぎ捨てて、安土城址信長公の夢のあとを散策。

隣の繖山は寒波の頃ならアイゼンも必要かと思われる階段状の山道を所々残る雪を見ながら登る。雄大な近江平野を眼下に琵琶湖をはさみ雪化粧の伊吹山、藤原岳を遠くに春を思わず山行、帰りのバ

スの中で最後にM氏が「いい旅やったなあ！」のひと言が言い得て妙！

本当にほんわかいい一日でした。リーダー始めご一緒した皆様ありがとうございました。



■御津アルプス縦走(穏やかな瀬戸内を歩く)

- 山 行 日 : 2月6日(土)
- 参 加 者 : L 砂川(延) SL 山本(正) 大谷 金島 島谷 瀧原 田中(重) 田中(由) 谷口 西口
- 行 動 記 録 : 山陽電車高砂駅 7:55 発 - J R 宝殿駅 8:15 発 - 室津漁港駐車場 (8:56 着) 9:15 発 - 魚魚市場前 9:40 発 - 室津街道入口 9:50 - 鳩が峰(10:30 着) - 雄鷹台山(11:30 着) - 昼食(11:45 着) 12:15 発 - 室津太子堂分岐(12:35 着) - 野瀬尼谷分岐 13:00 - 五六見分岐 13:15 - 五六見山(13:20 着) 13:30 発 - 五六見分岐 13:35 - アンテナ山 14:00 - 柏公園 14:20 - 室津漁港 14:30

◆◆山行に寄せる思い

谷口

帰宅して室津街道の事をネットで読んでいたら、街道の途中にあった井戸はやはり馬に水を飲ませていた場所らしいとありました。また少し平地になって瀬戸物のかけらなどがあったところは、御茶屋さんだったようです。当時はさぞかし賑わっていたことでしょうね。

ネットで紹介されている室津街道の写真は、昨日のように探検しているような道でなくきれいに整備されていました。

私は参勤交代の道であったことを聞き、歩きながら大名行列の人の動きはどうであったろうとか、時代劇の飛脚の走っているのを想像しながら歩いていました。

いつも、お膳立てしてもらった地図で、ついて歩くだけで楽しんでいましたが、このような歴史を知るともっと自分の中で世界が広がり、楽しみが増えるので、これからは登山の前に自分なりにちょこっと調べてみようと思いました。ありがとうございました。

◆◆立春を過ぎると、そこには春の海

瀧原

須磨アルプス、小野アルプスについて3番目のご当地アルプス山行だ。魚魚市場でのお弁当も楽しみにしていた。

魚魚市場から街中を通り抜け、道路わきの登山口に。看板はあるものの、見上げると竹が倒れ、道をふさいでいる。人が、一体、いつ通ったのだろうと思えるような道だ。案の定、腰をかがめて何本もの竹の下をくぐり、笹をかき分け、登って行く。やっと御津街道という看板のあるところに出て、嫦娥山の西側の山腹の平坦な道を歩いていく。一人一人がやっと通れるような道だ。これが旧街道だったのだろう。

鳩が峰に出てしばらく行くと、街道の案内板があった。あの有名なシーボルトも通った道と書かれていた。この御津街道は、西国の大名が参勤交代の時に瀬戸内から室津の港に上陸し、山陽道へ抜けていた道らしい。昔の大名も時間的、経済的にどのルートがいいのか探っていたのだと思うと身近に感じられると共に、室津の港が当時、いかに重要な拠点であったのかが窺い知れる。

雄鷹台山の尾根筋に出るまで急な登りがあり、途中のビューポイントでは牡蠣の筏が浮かぶ穏やかな海が見えた。山頂は展望無し。快適な尾根道を歩き、途中で昼食となった。そこには広場はないが、入り江が見渡せる南斜面で、白波の立たない春の海を眺めながら美味しいお弁当を食べていると、いつまでも、ここでのんびりと座っていたいと思った。まさに「春の海 ひねもすのたり のたりかな」である。



いよいよ、後半、途中の分岐では必ず止まって、今日いただいた拡大地図で現在地を確認。地図上に道はあり、朽ちかけた標識もあるが、ほとんど人が歩かないのと落ち葉で、道はないに等しいぐらい廃れていた。この山行中唯一、出会った高齢の御夫婦がSLに「歩いてくれてありがとう」と言われたそうだ。山は人が入らないと荒廃していく。この御夫婦は御津アルプスを大事に守っていかうと思っておられるのだろう。

五六見山も展望のない頂上で三角点にタッチし、みんなで笑顔の記念撮影を終えると、後は、柏公園まで山下りだ。広い尾根は道迷いをしないように、多くのテープが巻かれており、落ち葉で見えない道を踏みしめながら歩く。アンテナを過ぎると急な下りが続き、道なき道を歩いているようだった。

笹をかき分け、イバラをよけて、久しぶりにワイルドな山道を歩いた。しかしながら、瀬戸内ののどかな海や小島の眺望の素晴らしさとお弁当の美味しさに、差し引きしてもプラスの山行であった。さらに、おまけつきは牡蠣の買い物。最後、L車の方たちは「世界梅公園」にも立ち寄られた。

この御津アルプスは冬場にはすばらしい縦走ができる山だ。もっと多くの人を訪れ、歴史ある山を守ってほしいと思った。

お世話になったリーダー初めパーティの皆さま、楽しい一日をありがとうございました。



■丹生山～帝釈山 湯乃山街道(山田道)古道を楽しむ

- 山行日：2月9日(火)
- 参加者：La 野村 SLa 澤田(律) 内海 坂田(敬) 田羅間(勤) 苦瓜 西川 藤田 森本
Lb 佐々木 SLb 藤本 大谷 河合 田中(重) 田中(美) 田中(由) 村上(敬) 山本(清)
- 行動記録：衝原停留所 9:45 発～丹生山(11:10 着)11:25 発～帝釈山(12:10 着)12:35 発～丹生山(13:15 着)13:20 発～丹生山神社登山口(14:20 着)～六條八幡神社(14:40 着)15:05 発～山田小学校前(15:10 着)

◆◆丹生山系を楽しむ

内海

加古川水系の山に登りたく、今回の丹生山系も山田川～志染川～美囊川と流れ加古川につながる水系で、希望していた山行でした。

さて、自宅を出ると小雨模様、幸い雨はすぐ止み一安心。ところが道路の渋滞で集合場所まで70分を要した。乗り合いバス組など全員が集合、広い駐車場でミーティングとストレッチ体操を済ませて山行開始。

丹生山登山道は数か所あり、今回は義経道すぐ東側のコースを利用。ゆるやかな勾配のコンクリート地道を通り、登山道に入る。ここからは坂道が尾根筋を通り表参道合流地点まで続くが、暑くて汗びっしょり、着ぶくれ調整ため途中で休憩。表参道合流地点からは平坦な竹林トンネル状の道を進み、史跡「丹生山、明要寺跡」に到着。鳥居を潜り石段を上がって丹生山頂上(515m)の丹生神社に参拝。頂上は三段の広い平地で良く手入れされ、子供の頃の「村の鎮守」が懐かしい。休憩し次の帝釈山目指して出発。

帝釈山への山道は緩やかな上り下りで、岩が剥き出しになった道を登り切ると頂上(586m)、祠や二等三角点がある。好天で寒くもなく、ゆっくりと遠景を望み昼食。南側には鍋蓋山・菊水山等が望め眼下には山田の里が見える。

昼食後は丹生山表参道より下山、表参道には立派な等身大の丁石が109m毎に立ち、神仏山行が色濃く残っている。

25丁石の参道起点より里道を東に歩き、最終ゴール地点の六條八幡神社に全員無事完歩。神社には違和感のある見事な茅葺の三重塔(国指定重要文化財)、昔の神仏一体の名残とのことです。



ストレッチ体操後、解散、自家用車組は山麓の、なだらかな里道を歩いて戻る。北側には登った丹生山系を望み南側には丹生山田の里、横には山田川。でも、ここも神戸市です。

この歳になると、この風景や風土に心が洗われます。



■扁妙の滝と笠形山

- 山 行 日：2月11日(木・祝)
- 参 加 者：La 上田 SLa 澤田(律) 大野 谷口 橋本(健) 橋本(万)
Lb 和田 SLb 北村 嶋澤 苦瓜 村上 吉村
- 行 動 記 録：グリーンエコー笠形駐車場 9:00—キャンプ場(9:05 着)9:15 発～
扁妙の滝(9:30)9:45 発～滝見台(9:55 着)10:05 発～5合目
(10:40 着)10:45 発～笠形山山頂(11:45 着)12:15 発～5合目
(13:15 着)13:25 発～キャンプ場(14:05 着)14:15 発—
グリーンエコー笠形駐車場(14:20 着・入浴)15:30 解散

◆◆笠形山・扁妙の滝

苦瓜

今日の山行は登山日和。いやいやこれでは1番の目的、氷瀑は期待出来ないではないか！！そう思いながらも準備に掛る。いつも通り、朝は冷え込んでいる。

集合場所 JR 姫路駅で和田さんの車に乗車。市川サービスエリアで後の2台と合流。いざ出発。

グリーンエコー笠形に到着。入山届を出すと、上田リーダーから「キャンプ場まで車で行く」との事。やはり今回は期待薄。キャンプ場でストレッチを終え登り始める。最初のオウネンの滝でマイナスイオンを十分に浴び、岩場の沢沿いに足もとに気を付けながら登って行く。

目の前に扁妙の滝。先月中旬の氷瀑の名残が残っていた。急な鉄階段を登り滝見台へ。ここで体調不良のOさんは下山。残りのメンバーで注意を払いながら5合目まで登り小休止。6合目あたりから山肌に残る雪や凍った地面で急な斜面のため滑りそうになる。少し登った所でアイゼンの出番。今日はどう道を間違ったのか尾根づたいに頂上まで登る事となった。頂上では、雪が融けてぬかるんでいたが雲一つない晴天。下山は正規の登山道で下りる。やはり、アイゼンが活躍。

下山後は「響の湯」で疲れをとる。氷瀑は見られませんでしたでしたがリーダーさんのお陰で今回もこの山に登る事が出来ました。ありがとうございます。



■霧氷の高見山

- 山 行 日：2月13日(土)
- 参 加 者：La 澤田(律) SLa 西口 河合 島谷 田中(重) 苦瓜 山本(清)
Lb 尾越 SLb 待場 田中(美) 田中(由) 田羅間(勤) 藤原 村上
- 行 動 記 録：山電高砂駅 6:00 発～高見山登山口(9:00 着)9:25 発～小峠
(10:40 着)～高見山山頂(12:10 着)12:40 発～平野道分岐
(13:15 着)～高見杉(13:50 着)13:55 発～下平野下山口(14:35 着)
～かたすみ温泉(14:45 着)15:50 発～JR宝殿駅(19:10 着)

◆◆雲海の高見山

島谷

「高見山は関西のmatterホルンやで」と教えられたのは、クリスマス山行のサゴバでした。

「アイゼンなんてよう使わんし、むりむり」と答えたものの、高御位山遊会に入って初めての冬、雪山に挑戦したい気持ちが湧いてきて、翌日にはアイゼンをゲットし、また、皆さんに迷惑をかけまいと、事前にアイゼン練習ツアーも経験して高見山に臨みました。

しかし、4月並みの陽気が続いています。前日の朝、リーダー澤田さんから「天気は気にかかるが、予定通り山行を行います」メールをいただき、ひとまず安心。

暖かかったのですが、雨を想定しカッパのズボンをはいてスタートしました。石の急坂を上がり分岐を2か所過ぎると、稜線歩きとなります。両側の木立の間から、里の集落や他の山がちらちらと見えます。本来の2月はこの木に霧氷がへばりついているはずなのに。すると「わぁー」の声が聞こえ顔をあげると、右手になんと見事な雲海です。matterホルンと言われるだけあって、周りの山は高見山より低いです。そのため雲海が湧きあがってくる様を見下ろすことができ、綿菓子のように、羽毛のように、形の変る雲海は素敵でした。霧氷は見られませんでした。思わぬご褒美に大満足です。



山頂では、他の登山者も晴れやかな表情で、きっと私達と同じで、霧氷にまけない雲海を堪能されたのでしょうか。

下りの2時間は長かったです。切り倒された木がたくさんころがっています。山を巻くように降りていきますが、里の家が見えたり隠れたりして、心の中で「まだ?」「まだ?」と繰り返していました。予定時間どおりに下山し、いつもながら、計画の綿密さと統制のとれた行動が気持ちよかったです。

温泉で体を温めながら、「明日の六甲トレは雨が降っても槍が降っても決行らしい」と聞き、本日の私達のラッキー感に大満足でした。



■六甲全山縦走トレーニング

- 山 行 日：2月14日(日)
- 参 加 者：L①砂川(延) SL① 藤本 橋本(健) 前川(克) 三木(悦)
山下(雅) 和田
L②山本(正) SL②森本 赤木 岡本 小山 渡辺(和)
- 行 動 記 録：須磨浦公園発 6:30～鉢伏山 7:00・休憩～旗振山 7:15～
梅尾山 8:00～高取山 10:20・休憩～横尾山 8:25～東山 8:45・
休憩～妙法寺 9:15・休憩～トイレ前 11:10・休憩～菊水山
12:34・休憩～桜茶屋? (休憩)～掬星台 16:40(リタイア)

- 行動記録：須磨浦公園駅(6:28着)～ロープウェイ駅(6:54着)7:08発～梅尾山(8:00着)
8:05発～横尾山(8:20着)～須磨アルプス(8:35着)～東山(8:45着)8:50発～
妙法寺(9:18着)9:28発～高取山トイレ休憩(10:20着)10:30発～丸山トイレ休憩
(11:10着)11:15発～菊水下(11:53着)12:00発～菊水山山頂(12:34着)12:45発～
鍋蓋山(13:30着)13:35発～大竜寺(14:00着)～桜茶屋(14:10着)14:20発～掬星台
(16:00着)16:10発～記念碑台(17:10着)～ガーデンテラス(17:40着)
17:50発～一軒茶屋(18:30着)18:35発～小休憩(19:25着)19:30発～
最後の歩道を横切る(20:15着)～塩尾寺(21:05着)

◆◆『宝塚発22時3分』六甲全山縦走トレーニング

赤木

今年の六甲全縦トレは不穏な雰囲気が出ていた。前日から発達してきた低気圧が日本海を北上するため、天気予報では午前中は雨が残り、気温は例年になく上昇し強風が吹くとのことであった。天候だけではなく、自分自身のトレーニングもあまり出来ていないので体力的にも不安があった。

須磨浦公園駅の出発時点で驟雨にみまわれ出発が20分ほど遅れたが、雨はすぐやみ順調な滑り出しで、鉢伏山、旗振山、鉄拐山から高倉団地へと進み、長い階段を息を切らしながら一気に登り梅尾山頂で一息と振り返ると、「おー、あれは」と声が出た。先ほどの



雨で大気が洗われたのか、明石海峡が薄暗い空間に黒々と重量感溢れる陸地と鉛色に白い波の強烈なコントラストで、いつもは霞んで遠く見える淡路島をぐっと引き寄せ、海峡とはかく迫力あるべきものの如く狭く見える。大橋にスポットライトのように光が当たり、橋全体が立体的に大展開していた、息をのむ景観に時間のたつのも忘れがちになる。(こういう時間のロスが後あと大きく影響してくることはまだ誰も気がつかなかった。)

須磨アルプス、高取山、菊水山、鍋蓋山と次々とクリアしながら来たが、大竜寺でタイムリミットぎりぎりとなり、気を引き締め市ヶ原から、最大の要所摩耶山へと登って行った。

やはり、この登りはきつい。時間はどんどん過ぎて行った。掬星台では誰もいなかったが、ケーブルは動いていた、時間的な不安はどんどんつのるが、リーダー以下9人は出発した。

アゴニー坂、丁字ヶ辻、記念碑台、ゴルフ場、ガーデンテラスとほとんど休憩も取らず進む。六甲山上はかなり風が強かったが、気温が高かったので助かった、しかも今日はいつもと違って素晴らしい景色が広がっていた、菊水山、掬星台からの神戸や大阪湾の眺望、ガーデンテラスからつづく夜景、大気の澄具合が鮮烈に見えた、これが今回のご褒美だ。

ガーデンテラスで最後の決断をし、最終7人で宝塚に向かうことになり、リーダーの山本さんがヘッドランプをつけるように指示し皆がつけ決意の意思が伝わる、暗くなった道を取りあえず一軒茶屋に向け歩き始める、ヘッドランプの光のうつる足下のみ見ながらドンドン進んでいく。口を動かさず足を動かす、びっくりするほど早く一軒茶屋に着いた。

「なんとか行けるんちゃうか」、元気が出た。これからが皆の力とチームワークだ。誰も言わないが皆分かっている。時間も何とかいけそうだ、頑張ろう。

分岐からは、樹林帯の真っ暗な山道を進む進むどんどん進む、下ったり、登ったり、つまずいたり進む、塩尾寺へ向けて進む、約3時間歩いて歩いて歩きまくった。

女性2人を含む7人でどうにか無事宝塚に着くことができた、宝塚発22時3分の西宮北口行の電車の優先座席に皆でドカッと腰を下ろした時、リーダーの山本さんは、「何とか今日中に着けたなあ〜」と、やっと安堵の笑顔を見せてくれた。

今回も不安の中、何とかたどり着くことができたが、どんな時にもヒーローは生まれる。

無謀にもトレーニングもせず、初参加で成功した学習会Bの橋本健氏、彼の勇気と体力には心から敬意を表した。また山本さん、小山さん、岡本さん、渡辺(和)さん、藤本さん、ありがとう。

◆◆初めての六甲縦走トレーニングに参加して

橋本(健)

明日のトレーニング日の天気予報は、低気圧の通過により気温は今年最高となり荒れる模様で、実施されるのか気を揉んでいました。

当日、山陽電車の始発に乗り須磨浦公園には6時過ぎに到着しました。天候はバケツをひっくり返したような雨が降っている中、雨具支度をして準備体操を行い13名でスタートしました。須磨浦公園の急な階段を登る途中で雨は上がり、雨具を着けた身体はヒートアップして山頂遊園で全員雨具を脱ぎました。

途中で「どれ位歩きましたか？」と尋ねると「5分の1ぐらいやなあ！」との返事で、先の長さに気が遠くなりました。

高取山を下り菊水山に向かう途中で2グループに分かれることになりました。どちらのグループに着こうか迷いましたが先頭グループに着いて歩き出しました。

菊水山の登りは長いため手前で小休憩をすることになったのですが、後続のグループに追い越されてしまいました。競争ではありませんがウサギとカメの話が頭を過りました。

何とか西半縦走の市ヶ原に到着しました。私にとって縦走は、未知の世界への挑戦で、正直なところ半縦走が出来たらと思って参加しました。

エスケープの地点(ザコバ行き)の判断で、摩耶山を越えたら後は急な登りは無く惰性で歩けるとのアドバイス。エスケープを云う勇気が無く続行することになってしまいました。

掬星台に向かう途中は、低気圧の通過による強風が吹き荒れていました。六甲ガーデンテラスを超えて7名が暗くなった道を歩き一軒茶屋を経て宝塚を目指しました。右手に広がる夜景が歩く勇気を与えてくれました。

暗い道のりをひたすら歩き続けて塩尾寺に着きました。その後も急なアスファルトの下りの坂道により膝が悲鳴を上げていましたが、何とか宝塚駅に到着しました。

リーダー、皆様に大変お世話になり有難う御座いました。とにかく疲れました。

